

原発事故から十四年

原発事故はいのち・生活・生業を奪う

（苦難の中を生き抜く被災者とともに）

「いまこそ原発事故のリアルに向き合う時」

福島原発過酷事故から14年が経ちましたが、事故の終息宣言は未だ出せない深刻な状況が続いています。日本の全原発を止めた時もありました。世界ではイタリアやドイツ、台湾などが脱原発に動きました。にもかかわらず日本では政府が原発を推進する方針を打ち出し、関西以西では次々と老朽原発が再稼働され、12基（うち関西電力は7基）が稼働しています。一番古い高浜原発は50年を超えました。関東以北は一基も稼働出来ていなかったのに、今年11月、13年あまり停止していた宮城県の女川原発を再稼働させ13基稼働となりました。地震予知はできないというのが専門家の認めるところですが、政府の地震調査委員会は2023年、南海トラフ巨大地震が20年以内に発生する確率は60%程度としています。

原発をなぜ止めなければいけないのか？事故が起きれば、私たちの身に何が起きるのか、原発を止めた元裁判官と、声を上げ続けている避難者のお話をお聴ききして、迫りくる現実に向き合しましょう。

集会内容

【1部お話】

ひぐち

元裁判官 樋口英明さん

プロフィール

1953年三重県生まれ。京都大学法学部卒業後、83年4月福岡地裁判事補任官（35期）。福井地裁の裁判長として2014年5月21日に大飯原発3、4号機の運転差止め判決を、15年4月14日には高浜原発3、4号機の運転差止の仮処分決定を出した。17年8月に定年退官。

「私が原発を止めた理由」（旬報社）「南海トラフ巨大地震でも原発は大丈夫と言う人々」（旬報社）「保守のための原発入門」（岩波書店）「原発と司法」（岩波書店）映画「原発をとめた裁判長そして原発をとめる農家たち」

【2部お話】

かんの

福島原発事故避難者 菅野みずえさん

プロフィール

社会福祉は国民の権利の立場で、35年を生活保護と知的障がい者の福祉の現場で働いてきました。60代は女の青春、うんと楽しめと先輩方に云われてきたのに避難で苦勞の青春になってしまいました。悔しいです。

主催：脱原発兵庫ネットワーク

問合せ先：菅野 090-9989-7129

2025

3月9日(日)
14:00~15:45
終了後にデモを予定
【参加費】800円

ところ：神戸市内

(会場予約が1月初旬のため
会場予約後お知らせします)

